

# 大学生のキャリア支援



インタビュー

東京都市大学 等々力キャンパス  
キャリア支援センター 課長

**小板橋孝雄氏**

国家資格 キャリアコンサルタント  
日本キャリア開発協会認定 CDA  
(キャリア・デベロップメント・アドバイザー)

## ● 東京都市大学

武蔵工業大学と東横学園女子短期大学が統合され、2009年に東京都市大学と改称。世田谷キャンパスに工学部、横浜キャンパスに知識工学部、環境学部、メディア情報学部、等々力キャンパスに都市生活学部、人間科学部がある。在学者数は、学部合計で約6,800名（2017年5月現在）。

## ● 旅行会社から短大の職員へ

大学を卒業して最初は旅行会社に入りました。入社7年目に海外研修で半

年間アメリカに行き、そこで「働き方つ

ていろいろあるんだな」と感じ、憧れてしましました。海外で働きたいと思

い海外へ行って「自分探しの旅」みた

いなことをやつたり、東京で半年ほど

フリーターをしていました。30歳の時

に、大学職員の募集があつたので、応募しました。学生教育関係の仕事に自分でも興味があつた気がします。こうして短大の職業指導室（当時）で働く

ことになりました。偶然ですがハマりました、この仕事に。1992年、バブル経済の終わりの頃です。

## ● キャリア支援の歩み

当時、短大生の就職は非常に良かつたです。一流企業に一般事務職の正社員で入れました。学生が企業説明会に行つたら、「君、気に入ったから内定」なんていう時代、だつたんです。現場では、学生も企業採用担当者も列をなし

ました。ところが1年経つてバブルが崩壊したら、誰も来ない。採用しないから企業は来ないし、求人がない

## ● 現在の仕事

新学部ができて1期生から支援できました。現在の大学には7年前に着任しまし

から学生も来ない。そういう時代が続きました。「椅子に座つてないで、企業を訪問して挨拶して来い、卒業生がどんなところで働いているのかしつかり見て来い」と上司に言われ、訪問しましたが、誰も相手にしてくれないんですよ、採用がないんですから。

そのうち金融危機が来た。雇用形態も多様化してきました。正社員一般職が派遣や契約に変わっていく時代でしたんでしょう。一般職で就職を希望していた短大生にとつては受難の時代です。「わあ、これは大変だ」と今までのやり方がもう通用しなくなり、どう

したものか、もつと違う支援のやり方があるのかなどと考えていた時に、CDA（キャリア・デベロップメント・アドバイザー）というものを知り、2001年に資格を取りました。

学生一人ひとりが自分というものを見つめる、自分で自分のキャリアを作っていく、それを第三者的立場で話を聞いて一緒に考える仕事として、キャリアカウンセリングの手法を取り入れました。

この授業体験をキャリア支援センターでは学生に振り返らせて、キャリア支援にもつなげます。そのプロジェクトの中にいた自分はどんな自分だったのか、それを客観視するために、学生と一緒に振り返る。それを仕事といふものにつなげながら相談に乗ついく。授業でどんな経験をしたのかを振り返り、言語化する。インターインシップにしても、きちんと振り返りをさせることで、職業的な自己概念を明確にするのにすごく効きますね。

一方で他大学でもそうでしょうが、課題は、本当に就職関連の講座を聴いてほしい学生が来ないこと。言わなくともわかるような学生は来る。そつし

た。社会科学系の学生のキャリア支援に取り組んでいます。教授陣主導のキャリアデザインの授業やPBL（課題解決型学習）的な授業があります。例えば「渋谷の街をこれからどう開発していくらしいのか、みんなで調査して考え、提案してください」といつたプロジェクト型の授業です。実際に自分たちで調査して企業の人と会つたり、グループで話し合いをして発表する。職業理解・計画実行能力・コミュニケーション能力など、学生がすごく鍛えられる。

た学生は自分でできるし、実際もうやっている。講座でいろんな話をしてもちやんと自分なりに吸収している。講座が就職活動に活かせない、つながりない学生もいます。自己分析や履歴書が、講座でやつたことと全く違うものになってしまいます。個別に何度も話し合いかがら少しづつ自己と社会・仕事をつなげていきます。

### ●卒業生の支援

就職活動ほど学生を成長させるものはありません。自分を見つめること、仕事を知ること、将来の自分を描くこと、そういうことを学生に本ちはもっと早くやってほしいと思うんです。でも、どんなに準備をしつかりしてもその時にならないとわからなかつたり、やつてみないとわからないことがたくさんある。活動をしながら変化したり、見えてくる自分もある。終わつた後に結果が出ればすごく自己効力感を持てるし、教員の先生は「就活を経験する」と学生の授業への取り組みがすごく積極的になる」とよく言われます。やつてみていろいろわかつてくる。就職活動という「LIVE」でしか気づかないものもあると思うんです。「社会に出る前に、活動をする前に、大学1年から、準備しておけば」という意見が正論ですが、現場では、活動中にしか気づかないものもあるのでは、とふと思つたりします。